

挑戦と新たな価値が循環する 働きやすく暮らしやすい姫路

配布資料07-2

総合計画 行動指針	人	地域	活力	土台				
	年齢、性別、国籍、障害の有無等に関係なく、市民一人ひとりを地域社会の担い手として認め合い、それぞれが持つ能力や経験を最大限に発揮しながら輝いて生きる人とともに育てます	市民、地域団体、産官学金労言士、連携中核都市等により連携する市町など、多様な立場や考え方をを持った主体同士が互いに信頼し力を合わせあう地域をともにつくります	姫路・播磨が持つ優位性やICT・AI等の先端技術などを活かし、世界に誇れる新たなまちの活力をともに生み続けます	未来の市民を含め、誰もが健やかに、そして快適に住み続けられるような土台(仕組みや基盤)をともにつくります				
あるべき姿0327	地域に愛着を持ち、多様な人が活躍するまち	産官学・地域がつながり挑戦と共創から新しい価値が生まれ続けるまち	AI・先端技術を活用し、地域経済を牽引する活力が循環するまち	“姫路と言えば〇〇”が世界に浸透し、関わり、訪れられるまち				
【共通課題】	人口減少→労働力減少による経済縮小							
ビジョンでのカテゴリー	くらし	人材	イノベーション創出	創業・事業承継	活力基盤	PR戦略	アイデンティティ産業	立地特性の活用
中期方針案	一人ひとりの働きやすさを未来のスタンダードに	アドバンスト人材の創出と全ての人の活躍促進	つながり・生み出すシン産業	事業のめぐりを豊かにする	未来を創る、強い企業の底力	来て！見て！買って！	姫路らしさを磨く	物流×製造×エネルギー×観光＝多層型産業都市へ
方針詳細	多様な価値観と働き方を尊重し、一人ひとりが自分らしい働き方を選び、安心して暮らせるよう、働く環境と生活基盤の質を高める	技術革新に対応するため、変化に応じて自ら学び挑戦し続ける自律的な人材を育成する基盤の構築を支援する	企業及び企業が中心となった主体による研究・開発など、姫路市域における発展的な企業活動を支援し、地域産業の高度化と新たな価値の創出を実現する	創業と承継を戦略的に支え、事業の新陳代謝と成長機会を生み出す持続的な地域経済を構築する	企業の競争力向上に向けてソフト・ハード両面の強化を進め、世界水準の産業都市としての成長を実現するとともに、企業の安定的な維持・存続を図る	地域企業の競争力を高めるため、企業価値・製品価値の国内外への発信を強化し、持続的な市場拡大を実現する	姫路・播磨地域で育まれた伝統産業の活性化、姫路城を中心とした観光資源の活用、姫路市内産業の6次産業化等により、地域としてのアイデンティティを形成し、その魅力を高めていく	立地特性を活かした地域経済の持続的成長を実現する
キーワード	働きやすさ・暮らしやすさ、労働環境整備、雇用条件向上	リスクリング・外国人を含む高度人材誘致、アドバンストエッセンシャルワーカー（AEW）、高齢者の第二キャリア	エコシステム（≒SU活用による新事業創出）、開発奨励、新産業（研究・開発）支援	創業支援、事業承継	製造業X、生産性向上支援・価格転嫁支援→高付加価値化支援、経営支援、DX推進、AI導入補助金	販路拡大、PR展開	観光産業、「地場産業」への支援、6次産業化	企業誘致、姫路港整備等のハードインフラ整備、スマート物流拠点、GX
課題	賃上げ、多様な人材の受け皿 Z世代は仕事<生活の質…これからを担う世代にとって「働きやすさ」の重要性は高い	事務職人員のリスクリング（AI人材への転換） 高度人材の獲得競争激化 2040年には事務職が440万人余剰に	産学官金連携による新分野進出（≒マーケット開拓）	後継者不足の企業と意欲ある経営者とのマッチングの仕組みの認知不足	人口減少にともない生産性向上が最重要課題、単価を上げるための高付加価値化、AIトランスフォーマーシオン（AX）	人口減少に伴う国内・域内市場の緩やかな縮小→外需確保の重要性のウェイトが大きくなる	クラフト技術の承継	企業・学校・人材・資産等が一極集中 地方では労働力不足、インフラ維持困難 商圏縮小
課題（姫路独自）	20代の転出超過 女性の労働力率が低調、未婚女性の低賃金→製造業が多いことの別側面	商工会議所の調査によれば、DX導入に際し担当職員を配置している企業は12%→トランスフォーマーシオンの素地が脆弱	連携の仕組み（システム）と方法（How）が未確立	特に商工会区域における小規模事業者の事業承継が急務	DX導入まで実現できている企業が少ない	「姫路城」以外の歴史文化発信が弱い 製造業が盛んだが、技術力の発信が弱い	地場製品の発信力（地域ブランド訴求力）の強化が必要 観光消費額を飛躍させるためには滞在型観光の伸長が急務	工場用地の不足 工場用水の取得制限 空港が無い 労働力不足が進展
姫路市の特徴	大企業から小規模事業者まで様々な規模感の企業が集まっているため、多様なライフスタイルを取捨選択が可能 大学が複数立地している 近畿圏「買って住みたいまち」3年連続No.1	姫路市・台湾間交流強化に関する覚書が締結、台湾交流が始まった 外国人材を受け入れている技術系の専門学校がある 海外姉妹都市、姉妹城が多くある	多様な企業が集積している 行政・経済団体に加え工学系の大学も立地（市内に産学官金が存在） 協力企業が多い→高い技術を有しているため製品開発の余地がある	駅西や野里等、個性的な街並みのエリアへ出店が相次ぎ活性化している 市中心部のみならず周辺部である商工会区域でもスモールビジネスが生まれている	コロナ禍を機にデジタル機材導入が進んだ企業が多い	姫路城を核にまちの魅力が多数知られていない観光資源・伝統産業がある（家島、圓教寺、清酒、皮革、明珍火箸） 製造業の高い技術力	職人が製造業を支えている・職人が伝統産業（皮革・酒等）を支えている→実は職人に支えられているクラフトCity 日帰りで楽しめる観光コンテンツが多い→OSAKA plus One（＝大阪に訪問したインバウンドが日帰りで立ち寄り観光地）で選ばれている	新幹線、姫路バイパス、中国道、姫路港と交通網が発達 spring-8が近い 災害が少なくエネルギー製造地に近い 工学系の大学も立地し産学連携しやすい 製鉄・化学等豊富な労働力がある 関西圏に近い
政策案	・企業の働きやすい職場環境づくりを支援	・経済団体と協力し、社内人材養成講座を開催し市内企業の人材育成を支援	・イノベーション創出事業により産官学金が連携する枠組みを強化し新製品開発等を推進	・経済団体と協力し創業セミナーを開催し、起業家の事業実現を応援	・AIによる業務改善を支援し、市内企業全体の生産性向上を図る	・市内企業の海外見本市出展を支援し、販路拡大による外需獲得を支援	・伝統産業への支援を通じ、地場産業の活性化による地域の魅力形成を推進	・強靱な物流ルートを活かし、企業の立地を促進